

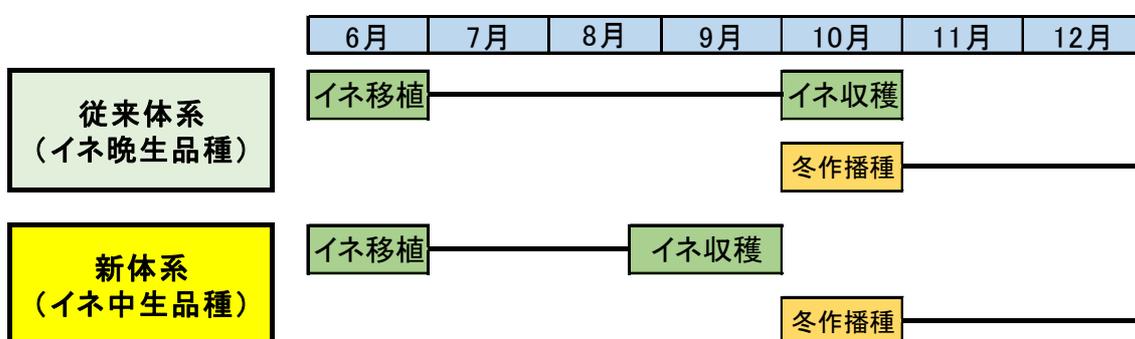
WCS用イネ中生品種と被覆尿素を 活用した省力施肥栽培体系の構築

背景

晩生品種の収穫時期は冬作物の播種作業と競合するため、早期収穫と追肥作業の労力軽減が求められていました。

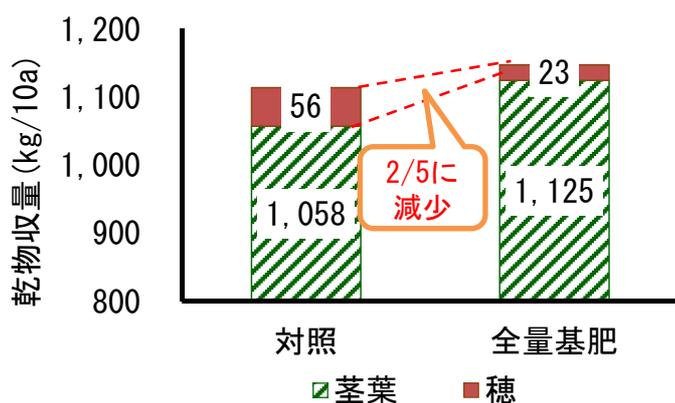
成果の内容

中生品種に切り替えることで冬作物との作業競合を回避し、被覆尿素を利用した全量元肥栽培によって施肥作業の省力化が可能となりました。



WCS用イネを従来の晩生品種から中生品種に切り替えることで、イネ収穫と冬作物播種の作業競合を回避できます。

WCS：ホールクロップサイレージの略で、茎葉と子実を一体的にサイレージ調製したもの



供試品種：中生品種つきあやか

被覆尿素を利用した全量元肥栽培は追肥が省略できます。

また、牛が消化できない穂の割合が減少し、茎葉収量が増加します。

【研究者のコメント】

〇WCS用イネ中生品種の導入による作業分散が、自給飼料の利用拡大につながることを願っています。

(畜産部 乳牛飼料チーム)